

平成22年度 世界史Bの学習（シラバス）

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	世界史B	単位数	4	履修学年・区分	2 学年
使用する教科書	高等学校 改訂版 世界史B (第一学習社)				
副教材等	歴史風景館 世界史のミュージアム (とうほう)				

2 学習目標

世界の歴史の大きな枠組みと流れを, 我が国の歴史と関連づけながら理解させ, 文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって, 歴史的思考力を培い, 国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

3 学習方法

- ①教科書の写真や地図などを参考に基本事項の確認を行う。
- ②プリントを利用し, 重要事項への関心を高める。
- ③具体例を増やし, 興味関心を促す。
- ④教科書などの事象についての質問などに, 身近な事から考えて答える。

4 学習計画

学期	月	学習内容 (単元名)	学習活動・ねらい	評価のポイント, 課題, 提出物等
第 1 学 期	4	序章 世界史への扉 1 生活の世界史	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツと茶, 暦と地図, 世界史と日本史とのつながりについて追究することを通して, 世界史学習への意欲を高める。 ・身近なものや日常生活にかかわる事柄を通して世界史とのつながりを見いだし, 日本史が世界史とかかわっていることに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツと茶, 暦と地図, 世界史と日本史とのつながりについて追究し考察した過程や結果をレポートにまとめ, 発表をすることができたか。
		2 世界の「時間」と「空間」のとらえ方		
		3 世界史と日本史とのつながり		
	5	第1章 諸地域世界の形成 1 人類の出現と文明の誕生	<ul style="list-style-type: none"> ・人類の起源について関心を高め, 農耕・牧畜の始まり, 文明の成立の過程を理解し, 基本的知識を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人類の誕生と進化の過程を把握できたか。 ・地図・資料を用いて, オリент世界・地中海世界を比較できるか。
		2 西アジア・地中海世界	<ul style="list-style-type: none"> ・オリентと地中海世界の風土, オリент世界の展開, ギリシア・ローマ文明, イラン民族の発展に関する資料を活用し, 基本的知識を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オリент世界・地中海世界の特色を風土をふまえつつ理解できているか。
		3 南アジア世界の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・南アジア世界の風土, インダス文明, アーリア人の侵入以後の文化, 社会, 国家の発展に関する資料を活用し, 基本的知識を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・都市文明を特徴とするインダス文明について把握できたか。 ・インドに侵入したアーリア人が定住して諸国家を形成したことを把握できたか。
	6	4 東アジア・内陸アジア世界の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・東アジア・内陸アジアの風土, 新石器文化, 殷・周から唐までの中国王朝の変遷と, 日本を含めた東アジア世界の国際関係, 中国王朝と遊牧国家との関係に関する資料を活用し基本的知識を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東アジアに成立した中華文明と内陸アジア世界の形成, 国家の成立, 遊牧民との抗争, 唐の支配体制及びその制度を取り入れた日本などの国家形成の過程を理解できたか。
	第2章 諸地域世界の交流と再編	<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム成立の背景と特質, イスラーム世界の形成と 	<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム教の成立とアラブ人の活動, イスラーム法に基づ 	

第 10 学 期	7	1 イスラーム世界の形成と拡大	拡大の過程，歴史的意義について考察する。	くイスラーム帝国の拡大について把握できたか。イスラーム教の内容については深入りをさげたい。	
		2 ヨーロッパ世界の形成と変動	・ヨーロッパの風土，ゲルマン人の移動，西ヨーロッパ世界の形成，西ヨーロッパ封建社会，カトリック教会と文化，ビザンツ帝国と東ヨーロッパ世界の形成，都市の発達と王権の伸長に関する資料を活用し，基本的知識を身に付ける。	・西ヨーロッパの形成，キリスト教と人びとの生活，国王の中央集権化による封建制の定着などについて把握できたか。キリスト教の内容については深入りをさげたい。 ノート提出	
		3 内陸アジアの動向と諸地域世界	・契丹・女真・モンゴルを中心とした内陸アジアの動向がユーラシア諸地域の交流と再編に果たした役割について考察する。	・13世紀のモンゴルが広大な地域を支配する過程を知ることができたか。また，日本が元寇の危機を乗り越えたことを把握できたか。	
	9	第3章 諸地域世界の一体化	・16世紀～18世紀にかけてのアジア諸地域世界の社会や文化の特質について考察する。	・16～18世紀の中国と東アジアの情勢を把握できたか。	
		1 アジア諸帝国の繁栄と成熟	・ルネサンス，大航海時代，アメリカ大陸の古文明とその後の変貌，宗教改革の動向に関する資料を活用し，基本的知識を身に付ける。	・新しいヨーロッパ文化としてのルネサンスを知ることができたか。アジア・中南米に物産を求めてヨーロッパ各国が進出したことを理解できたか。宗教改革については触れる程度とする。国王による絶対主義と重商主義による植民地化を理解できたか。	
		2 ヨーロッパの拡大と大西洋世界	・主権国家体制の特色，ヨーロッパ国際関係と商業覇権の推移，大西洋三角貿易の歴史的意義について考察する。		
		3 ヨーロッパ主権国家体制の成立	・アメリカ独立革命，フランス革命，ラテンアメリカ諸国の独立が相互に関連をもちながら起こったことを理解する。	・イギリスから始まる産業革命と，ヨーロッパ及びアメリカの革命による国民国家形成という社会変革について理解できたか。	
		第4章 諸地域世界の変容	・ウィーン体制下の各地で自由主義・ナショナリズムの運動が高まり，イタリアやドイツなどで国民国家が形成されたことを理解する。	・ヨーロッパ各国によるアジア地域の植民地化，特に中国に対する利権争いの激烈化について把握できたか。	
		1 1	1 アメリカとフランスの革命	・先住民に対する抑圧，黒人奴隷制度や奴隷解放後の人種分離などが，現在まで続く人種差別の一因となったことを理解する。	
	11	2	2 産業革命	・日本の明治維新とその後の近代化の動きがアジア諸国に与えた影響について考察する。	・日本で江戸幕府が倒れ，明治維新が起こったこと，日本の朝鮮進出を理解できたか。
		3	3 19世紀のヨーロッパ	・ヨーロッパ諸国によるアジア・アフリカの植民地化をめぐる競合とアジア・アフリカの対応の歴史的意義を考察する。	・ヨーロッパ各国の帝国主義をまねた日本の帝国主義の進展を把握できたか。
		4	4 アメリカ合衆国の膨張		
12	5	5 世界市場の形成とアジア諸国			
	6	6 帝国主義と世界の変容			

第 3 学 期	第5章 地球世界の形成	・第一次世界大戦後の世界の変化について、第二次世界大戦へとつながった問題点を含め、多角的に考察する。	
	1 第一次世界大戦と民族主義の展開		
	2 ファシズムの台頭第二次世界大戦	・ファシズムの特徴について理解する。	・未曾有の戦禍を引き起こした2度の大战が、どのような社会情勢の中で起きたのかを理解できたか。
	3 米ソ冷戦と第三勢力	・冷戦の背景について、第二次世界大戦中の国際関係も復習しながら多角的に考察する。	
	4 冷戦の終結と地球社会の到来	・東欧諸国の民主化とソ連の社会主義体制の崩壊について、その歴史的意味を多角的に考察する。	・大战後の米ソ冷戦及び世界の政治情勢と植民地の独立について把握できたか。平和の大切さを理解できたか。
	5 国際対立と国際協調	・現代の国際問題、国際協調の意義と課題について歴史的観点から理解し、その知識を身に付ける。	・現代の国際問題、科学技術の発達と現代文明に関する資料を収集・選択・活用するとともに、追究し考察した過程や結果をレポートにまとめ、発表することができたか。
	6 科学技術の発達と現代文明	・情報化、先端技術の発達、環境問題などについて関心を高める。	
7 これからの世界と日本	・これからの世界と日本の課題について関心を高める。		

5 学習評価

(1) 評価の観点及び内容について

以下に示す三つの観点に基づき、学習内容のまとまりごとに評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。

なお、学習計画に示された「評価のポイント」は三つの観点と結び付いた具体的な評価基準と考えます。

評 価 の 観 点 及 び 内 容	
1 授業・教材に対する「関心・意欲・態度」	世界の歴史におけるさまざまな出来事に対して関心を持ち、意欲的に探求しようとする態度を身につけているか。
2 歴史に対する「思考・判断」	世界各地の歴史におけるさまざまな人間の文化や政治について調べ、日本の歩みとも対比しながら論理的に考えて評価・反省することができるか。
3 世界の人間の歩みに対する知識・理解および表現力	世界の歴史を知ることで、人間としてどのように生きていけばよいかを判断する知識を身につけ、表現できるようになったか。

(2) 「評価の観点」の評価方法について

評価方法\観点	観点1	観点2	観点3	備 考
学習状況の観察	◎	○	◎	学習活動への参加の態度
提出物	◎	◎	◎	プリントなど
ノート	◎	○	○	年間5回提出
定期考査	○	◎	◎	年間5回実施

(◎は、観点の中で特に重視するという意味です。)